
<投稿規程>

1. 本誌の名称は「鹿児島大学医学部保健学科紀要」とする。
2. 本誌を発行する目的
 - 1)看護学, 理学療法学, 作業療法学および保健学の学術的な発展に貢献すること。
 - 2)保健学科内に看護学, 理学療法学, 作業療法学共通の研究発表の場を提供すること。
 - 3)特に, 若手研究者に論文発表の機会を提供すること。
 - 4)鹿児島大学医学部保健学科独自の研究・教育的取り組みについて, 外部への情報発信を行うこと。
3. 掲載される原稿

本誌は, 医学保健学に貢献しうる論文(研究報告, 症例報告)・活動報告・資料等で, 他誌に発表されていないものを掲載する。投稿者は, 鹿児島大学医学部保健学科の専任教員に限る。共著の場合は, 保健学科専任教員を含むことを必要とする。また, 編集委員会の決定により, 依頼原稿を掲載することができる。
4. 倫理的事項

本誌に掲載する論文は, 人を対象とする研究にあつてはヘルシンキ宣言を遵守し, 研究対象者の人権の尊重およびプライバシー保護に充分考慮する。また, 動物を対象とした研究では, 動物福祉の精神に基づいて倫理的になされたものでなければならない。
5. 原稿作成
 - ・原稿の作成については, 「原稿作成要領」として別に定める。
6. 原稿提出

原稿を提出する場合は, 次の項目に従うこと。

 - 1) 原稿を電子媒体で, 編集委員長に送付する。
 - 2) 原稿は, 著者名, 所属, 連絡先は別紙に記載し, 本文と分ける。
 - 3) 提出は原則5月, 8月, 11月とする。査読結果を受け取ったら指示に従って対応し, 採択後の最終原稿は電子媒体と伴に提出する。
7. 採否および掲載

原稿の採否については, 査読結果を参考に紀要編集委員会において決定する。
掲載の順序は編集委員会が決定し, 本誌掲載論文の著作権は紀要編集委員会に所属する。

8. 校正

著者による校正は2回とする。校正は朱書きで行い、指定の期限内に返却する。

<原稿作成要領>

1. 原稿の様式について

- 1) 原稿はA4サイズ用の紙にワードプロセッサを用いてプリントアウトしたものとする。邦文の場合、1ページは横書き40字×30行とし、行間を十分にあけること。欧文の場合はダブルスペースとする。専門領域の関係で、縦書きの印刷を希望する際は、前もって紀要編集委員へ問い合わせること。
- 2) 原稿の枚数は、図、表、写真、文献を含めた14頁以内とする。欧文の場合は、8,000語以内とする。これを超過する場合は、前もって紀要編集委員会（事務は鹿児島大学医歯学総合研究科総務課庶務係が担当）に問い合わせること。

2. 邦文原稿作成について

- 1) 原稿には表紙をつけ、題名、著者名、著者所属、連絡先の著者、住所、電話番号、Fax、E-mailを明記する。著者名は右肩に番号を附し、番号に添って所属を記載する。査読に表紙を除いて提出できるよう原稿の最初に題名を記載する。また、原稿には通しページを記入する。
- 2) 原稿には種別（研究報告・症例報告・活動報告・資料・その他）を明記する。論文の属性の妥当性は紀要編集委員会で最終的に判断する。原著は、要旨、緒言、対象・方法、結果、考察、文献、表、図の説明、及び英文要約の順に記載し、見出しについては番号をうたなくてよい。症例報告、総説等は、要旨、本文、文献、図表の説明、及び英文要約の順に記載する。要旨、本文、文献、図表の説明は改頁して書くこと。
- 3) 原稿には、原則400字以内の要旨及び和文key words（5個以内）をつける。key wordsはタイトルにない語が望ましい。
- 4) 英文要約は、論文のみ記載例を基に、表題、著者名、所属、500語以内の抄録文及びkey words（5個以内）の順に記載する。また、採択後英文校正を必ず済ませ提出すること。
- 5) 本文は現代かなづかいとし、医学用語は、日本医学会編、医学用語辞典による。外国語、外国人名、地名、薬品名は原語のまま用い、外国語で、一般に日本語化しているものは、カタカナを用いてよい。論文及び要旨中たびたび使われる語は、略語を用いてもよいが、最初のときは正式の語を用い、（以下・・・と略す）と明記する。数字は算用数字（半角）、度量衡単位はCGS単位（m, cm, cm², l, dl, ml, kg, g, mg, ug, ng など）を用いる。年号は西暦で統一する。また、読点は「,」とし句点は「。」とする。

3. 欧文原稿作成について

欧文原稿の場合は、A4判タイプ用紙を使用し、ダブルスペースでタイプする。論文名、著者名、所属、要旨、Key Word、本文、文献などの順序は、邦文と同様の方法で作成する。

4. 図・表の作成について

- 1) 図、表は論文原稿とは別にし、その下端または裏側に図の番号、著者名を記す。上下の区別が必要な時はそれを明示する。図、表の番号は、図 1、表 1、写真 1（英文では、Fig.1, Table 1, Photo.1）のごとくそれぞれに一連番号を付し、本分欄以外（右側）に挿入箇所を指示する。図、表には説明をつける。写真は手札判以上の鮮明なものとし、原則として白黒とする。カラー印刷の場合は実費を徴収する。
- 2) 図、表は1頁全体にわたる場合は原稿用紙3枚（1200字）として計算する。なお原寸大の製版を必要とする場合はその旨明記する。図、表の大きさは25cm×20cmを限度とする。これを越える場合は編集委員会で可否を決定する。組織標本には染色法と倍率をつける。MRIには撮像条件を記載する。患者の顔写真を使用する場合は、個人を特定出来ないように目の部分を隠すなど工夫する。患者を特定できる写真が必須のばあいは、患者あるいは親権者より承諾書を添付する。

5. 引用文献の記載について

文献は、引用番号（本文中の引用順）、著者氏名（3名まで著者名を記載し、4名を越える著者名については、日本語論文は「他」、外国語論文は「et al.」とする。例示参照）題名、雑誌名、西暦年号、巻数、初め及び終わりの頁、の順に記載する。誌名の略記は、引用雑誌所載の略名を用いる。単行本の場合、著者名、書名（編著の場合は、論文名、書名、編者氏名）、版数、発行所、発行地、年次、引用頁の順に記す。学会発表の抄録を引用するときは表題の最終に（会）、欧文発表の場合は（Abstr.）とすること。その他、以下の例に従って誤りないよう注意すること。文献規定が守られていない場合、引用の誤りがあるときは、採択されないことがあるので充分注意すること。

例

- 1) 寺本信嗣, 寺本憲子, 大内尉義, 他: 副交感神経機能低下の関与が考えられた超高齢者起立性低血圧の一症例。日老医誌 1990; 27: 478-483
- 2) 仲村隆三, 斉藤雄介: 臨床運動学. 第3版, 医学書院, 東京, 1990, p18-35
- 3) 江藤文夫: 老年者のリハビリテーション, 新老年学(折茂 肇編), 東京大学出版会, 東京, 1992, p899-909
- 4) 小原謙一, 江口淳子, 石浦佑一, 他: 実験モデルによる安楽座位におけるずれ力推定値の妥当性の検証。理学療法学, 2007;34(suppl):511. (会)
- 5) ABC看護学会: ABC看護学会投稿マニュアル, <http://www.abc.org/journal/manual.html>, 2003, 1, 23
- 6) Draper BM. A comparison of caregivers for elderly stroke and dementia victims. J Am Geriatr Soc 1992;40:896-901

- 7) Draper BM, Poulos CJ, Cole AMD, et al. A comparison of caregivers for elderly stroke and dementia victims. *J Am Geriatr Soc* 1992;40:896-901
- 8) Murray PR, Rosenthal KS, Kobayashi GS. *Medical Microbiology*, 4th ed. St Louis: Mosby; 2002
- 9) Meltzer PS, Kallioniemi A, Trent JM. Chromosome Alterations in Human Solid Tumors. In: Vogelstein B, Kinzler KW, editors. *The Genetic Basis of Human Cancer*. New York: McGraw-Hill; 2002:93-113
- 10) Brandes AA, Taphoorn MJB, Eskens FALM, et al. Temozolomide chemotherapy in recurrent oligodendroglioma. *Neurology* 2000;54(suppl 3):A12. (Abstr.)
- 11) Garrow A, Weinhouse G. Anoxic brain injury: assessment and prognosis. In: *UpToDate Cardiovascular Medicine* [online]. <http://www.UpToDateInc.com>. February 22, 2000

引用文献は、主要なものにかぎり、記載する。